

Hello! FUJISEI

No. 16

政府が公表した「平成22年版 高齢社会白書」によると、平成21年10月1日現在の日本の総人口は1億2,751万人で、前年に比べて約18万人減少しています。

このうち65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,901万人(前年2,822万人)となり、高齢化率(総人口に占める割合)は22.7%(前年22.1%)でした。男性は1,240万人、女性は1,661万人で、男性対女性の比は約3対4となっています。

高齢者人口のうち、「65~74歳人口」は1,530万人

(男性720万人、女性809万人、性比89.0)で総人口に占める割合は12.0%、「75歳以上人口」は1,371万人(男性520万人、女性852万人、性比61.0)で、総人口に占める割合は10.8%。75歳以上人口は、65~74歳人口の伸びを上回る増加数で推移しています。

昭和25年には

すでに「本格的な高齢社会」

将来は現役1.3人で高齢者1人を支える

総人口の5%に満たなかった65歳以上の高齢者人口は、昭和45年に7%を超え(国連の報告書において「高齢化社会」と定義された水準)、さらに、平成6年にはその倍の水準である14%を超えました(「高齢社会」と称された)。そして、今では22%を超え、5人に1人が高齢者、10人に1人が75歳以上人口という「本格的な高齢社会」となっています。

65歳以上の高齢人口と15~64歳の生産年齢人口の比率をみると、昭和35年には1人の高齢人口に対して11.2人の生産年齢人口であったの

に対して、平成21年には高齢者1人に対して現役世代2.8人になっています。

今後、高齢化率は上昇を続け、現役世代の割合は低下し、平成67年には、1人の高齢人口に対して1.3人の生産年齢人口という比率になります。仮に15~69歳を支え手とし、70歳以上を高齢人口として計算してみても、70歳以上の高齢人口1人に対して生産年齢人口1.7人という比率になります。

対策が急がれるところです。

高齢化の推移と将来推計

(「平成22年版 高齢社会白書」より)

